

モルディブ水上飛行機 Trans Maldivian Airways

[モルディブ共和国]

直行便4時間30分



1) ソネバガリの専用機。水上飛行機会社と契約してリゾート専用機として独自のペインティングを施している水上飛行機。 2) 水上飛行機コックピットの計器。客席とコックピットの間には仕切りがなく丸見え。 3) マーレ空港に近づき着陸態勢に入る。 4) モルディブに初めて水上飛行機を導入したデンマークの起業家ラス・エリック・ニールセンが設立した Maldivian Air Taxi 社の機体は赤と黒、緑を織り交ぜたモルディブ国旗のカラーリング。現在もそのままのペインティングの機材が空を飛ぶ。



5) Dusit Thani 空港。リゾートのすぐ近くに浮かぶフローティングに水上飛行機を着けボートが迎える。リゾートによっては直接栈橋に着けることもある。 6) Trans Maldivian Airways の新しいペインティングの水上飛行機。 7) Trans Maldivian Airways は黄色とブルーのカラーリング。国際ターミナルと水上飛行機ターミナルを送迎するシャトルバス。 8) 南部の環礁へ向かう際には首都マーレ上空を通過。 9) 水上飛行機からの臨むモルディブはまさに地球が作り上げた芸術作品。想像を超える美しさにあつという間にリゾートへ到着。

空を翔る

双子のカワウソ

モルディブの空の玄関マーレ国際空港の開業は1966年。60年代のモルディブはまさにインド洋の秘境だった。時が流れ、その美しい島々と珊瑚礁の魅力はじわじわと人々を惹きつけはじめる。1972年にモルディブ初のリゾート「クルンバ」が開業してからは毎年リゾートが開業しモルディブの観光業が花開いた。

1993年、デンマークの起業家ラス・エリック・ニールセンはもっと早く快適にリゾートへの移動ができないか！と水上飛行機を導入した航空会社を設立。これをきっかけにモルディブの空に水上飛行機が登場する。

現在では2社あった水上飛行機会社が合併し「トランス・モルディブ・エアウェイズ」となり、46機の水上飛行機を保有する同型小型機としては陸海含め世界最大のフライト数を誇るようになる。カナダのデ・ハビランド社が開発した「DHC6」と呼ばれるこの飛行機は熱帯のジャングルから北極の極地、砂漠や高所などあらゆる僻地でも運航が可能となる優れたもの。短い滑走路でも離着陸が可能な機動性。車輪、フロート、スキーなど環境に合わせた柔軟性により世界のベストセラー機となる。「Win Otter (双子のカワウソ)」と呼ばれるのはカワウソの愛称を持つ旧型機「DHC3」のエンジンを2つ搭載するため。双子のカワウソのおかげで、より遠くの環礁にも続々と新しいリゾートが開業し、ますますモルディブから目が離せない。